

ご挨拶

日本バルカー工業株式会社
代表取締役社長 兼 CEO

瀧澤 利一



平成30年の初春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

読者の皆さまには日頃から本誌をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、皆さまに支えられ当社技術誌は創刊60周年を迎えることができました。

長年にわたってご協力、ご援助をいただきました需要家各位、愛読者の方々に厚く御礼申し上げます。

今後も、これまで培ってきた独創的技術を更に発展させた「シールエンジニアリング・サービス」を基軸とする当社の革新的な技術創造による新たな価値提供に果敢にチャレンジし、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。また本誌がこれまで以上に読者の皆さまにより良くご理解いただき、ご活用していただけますよう努めてまいります。

昨年を振り返ると、わが国経済はIT産業を中心とする輸出の回復、個人消費の底堅い推移を反映して企業収益は改善の動きがみられるようになりました。

海外経済では、米国で内需を中心に設備投資の下支えなどにより緩やかな回復傾向を示しておりますが、中国経済の構造改革、地政学的問題の緊迫化などを背景に新興国で成長の鈍化の動きがみられました。

また国内製造業において品質検査体制をはじめとするものづくりの根幹にかかわる不正問題にみられるように、企業の社会的責任やリスクマネジメントに対する重要性を再認識しました。一方、様々な産業分野においてAIの導入、IoTの活用など新技術を積極的に活用した事例がみられた年でもありました。

このような状況下、バルカーグループは第7次中期経営計画「New Valqua Stage Seven (NV・S7)」を完遂させるとともに、次のステージ (NV・S8) に向けて「シールエンジニアリング・サービス」を基軸とした技術開発の推進を経営課題として捉え、グローバル市場での新たな価値創造を目指した事業活動を展開してまいります。

最後になりましたが、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げますとともに、読者の皆様の益々の発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。